

新型コロナウイルス COVID-19 感染症対策

市民の生活最優先の施策、経済支援、子育て支援

FUN! OBU
夢ふくらむ 大府の未来

健康都市おおぶ
50th anniversary

市制50周年

2020 Obu Year In Review

10大ニュース特集号

出生率

県内**1**位

保育環境整備
多胎児支援
不妊治療助成
臨時特別出産祝金

運転技能向上維持に向けて

高齢ドライバー支援

DAIWA 防災学習センター

防災学習センター
OPEN!



第6次
総合計画
スタート!

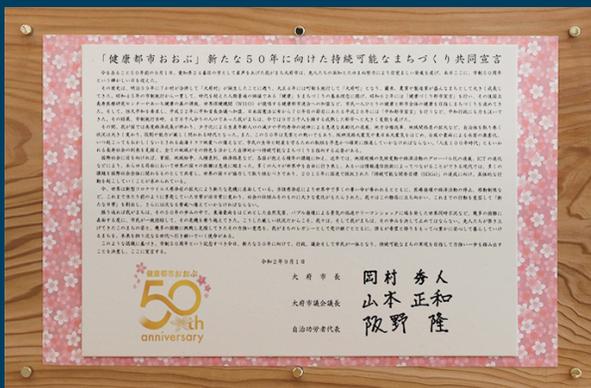
2期目就任



車両一新!

ふれあいバス

持続可能なまちづくり共同宣言



ニューイヤー駅伝 **6**位!

愛三工業陸上競技部

PR動画制作
手話言語条例制定

市制 50周年

健康都市のレガシーの「継承」と「創造」により、新しい大府へと踏み出します。



新たな50年に向けたまちづくりのスタート

9月1日に開催した「市制50周年の集い」で、市長、市議会議長、自治功労者代表の3者が『健康都市おおぶ』新たな50年に向けた持続可能なまちづくり共同宣言を発表した。

これは、新たな50年に向けて市、議会、市民が一体となって、持続可能なまちの実現を目指し力強い一歩を踏み出していくことを決意したも



ので、大府市は、未来への新たな一歩を歩み始めた。

50周年記念フラッグ・パネル・婚姻届・出生届

市制50周年を祝い、大府駅・共和駅に記念フラッグを設置した。また、人生の節目を祝う撮影用記念パネルや記念の婚姻届・出生届を制作した。



サクラとツツジを指定

9月1日、新たに市の木に「サクラ」を、市の花に「ツツジ」を追加指定し、市役所市民健康広場に「関山」という種類のサクラを植樹した。市内のサクラの名所や関連イベントなどの情報を掲載した『サクラMAP』が完成した。

市制50周年記念市勢要覧にも、石ヶ瀬川沿いの桜並木を歩く市制50周年スペシャルサポーターの柳美稀さんを掲載している。

届け出挙式

12月24日、未来への一歩を踏み出す新郎新婦の門出を祝う、『届け出挙式』が市役所の議場で行われる予定。



▲撮影用記念パネルの前で笑顔を見せる新婚夫婦



4月13日、岡村秀人市長の2期目となる市政のかじ取りが始まった。

市長2期目就任

新たな大府の船出

第6次大府市総合計画

4月から市にとって新たな時代のまちづくりの指針である第6次大府市総合計画がスタートした。

将来都市像を「いつまでも 住み続けたい サステイナブル健康都市おおぶ」と定め、市民の皆さんがいきいきと健やかな生活を送ることができる持続可能なまちづくりを進めていく。

高齢ドライバーの 運転技能の維持・向上へ

ブレーキの 踏み間違い防止へ

4月1日、アクセルとブレーキの踏み間違いによる事故を抑止するため、65歳以上の方の安全運転支援装置の購入・設置に係る費用の一部を補助する制度を開始した。市が令和元年に実施した地域別懇談会の中で多かった「長く運転したい」という声に応えるため、迅速に支援を実施した。

安全運転技能の維持・ 向上を目指して

4月10日、市は国立長寿医療研究センター(長寿研)と高齢者の安全運転技能の維持・向上に関する研究覚書を締結した。以降、市は長寿研と協力し、安全運転技能の維持・向上に効果的なトレーニング方法の開発に向けて研究を行っている。なお、研究にあたり、市は、500万円を負担した。

新型コロナウイルス COVID-19

感染症対策

市民の安心安全な生活を最優先に

スピード感を持った対応

国による1人10万円の特別定額給付金の支給決定後、市は、独自シSTEMの開発や特別チームの設置など、給付業務に早急に取り掛かり、全国的にも早い時期に給付を開始した。

他にも、大府市感染症対策条例の制定、スギ薬局と連携したマスクの販売、水道料金の基本料金の免除、事業者などへの補助金の交付など、きめ細かな新型コロナウイルス感染症対策を、スピード感を持って実施した。

市の活気を取り戻すために

新型コロナウイルスの影響で、気持ちも消費も落ち込みがちな中、市民生活を支援し、市の活気を取り戻すため、「学生応援！ふるさと便おぶ」やおぶ元気商品券(1万円分)の配布を実施した。

子育て中の家庭にも手厚く支援し、特に国の特別定額給付金の基準日以降に生まれた赤



▲ふるさと便の送付品

小・中学校の臨時休校

ちゃんにも一律10万円を支給する市独自の「臨時特別出産祝金」については、新聞や昼の情報番組で取り上げられ、全国から注目が集まり、大府に追随する自治体も多く見られた。

2月27日、国・県から小・中学校の臨時休校について要請を受け、3月2日から臨時休校の実施および他市町に先駆けた自主登校教室を開始。卒業式・入学式は規模を縮小して実施した。その後、緊急事態宣言などを受け、5月31日まで臨時休校を継続し、翌日から授業を再開。高校受験を控えた中学3年生を支援するため、遠隔授業の試行や民間のオンライン学習サービスの無償提供などを実施した。

市民・事業者の皆さんの温かい協力

新型コロナウイルス感染症対策に必要な財源を確保するために、対策基金を創設した。新型コロナウイルス感染症対策への寄付金の口座を開設し、多くの寄付金が集まった。マスク・アルコール消毒液などの物品の寄付も寄せられ、市は感染拡大防止、市民生活の支援に活用した。

地震・水害・火災を 体験して学ぶ

防災学習センターオープン



消防力を充実強化するため、老朽化してきた共長出張所を新築移転した。移転に併せ、消防設備の使い方を学んだり、災害を疑似体験したりすることができるようDAIWA防災学習センター(市防災学習センター)を併設した。

迫力のある映像や音、地震の恐怖のリアル体験など、さまざまな仕掛けを施しており、疑似体験を通して個人や地域の防災力を高める狙い。

市防災学習センターは市が整備したもので、大和機工株とのネーミングライツ契約により愛称を「DAIWA防災学習センター」としている。

2020ニューイヤー駅伝 堂々の6位



元日のニューイヤー駅伝で愛三工業陸上競技部が初めての入賞となる6位に躍進した。市制50周年の記念すべき年の始まりに、素晴らしい走りでも市民の皆さんへ明るい話題を届けた。



愛三工業陸上競技部

出生率 県内 No.1

平成25〜29年の市の合計特殊出生率が県内で最も高い1.93を記録した。これは厚生労働省が7月31日に発表した「人口動態保健所・市区町村別統計の概況」から判明。市は、子どもを産み育てやすい環境づくりを推進し、近年では保育需要に応えるため、荒池保育園の建て替えや私立保育園の誘致、多胎児家庭への支援、特定不妊治療費の助成に取り組んだ。

登録されれば、市内の国の登録有形文化財は平成27年8月に登録された大倉公園休憩棟と茅葺門に続き、3件目、4件目になる。

7月17日、横根町地内にある明神樋門（写真右）と明神川逆水樋門（写真左）を国の文化審議会が国の登録有形文化財にするよう、答申した。明神樋門・明神川逆水樋門ともに100年以上前に建設された人造石工法の樋門で現在も役割を果たしている。人造石工法の発案者である服部長七が手掛けた貴重な人造石遺構である点が評価され、今回の答申となった。12月中旬には官報報告を経て、正式に登録される見通し。

おぶちゃんが、まちめぐり 新しいふれあいバス

10月1日から新しいふれあいバスの運行がスタートした。車両を一新したことに伴い、バスをコースカラーでカラーリング。おぶちゃん原作者の木村香央里さんがデザインし、コースごとに地域の特徴を表したおぶちゃんのイラストでラッピングした。他にも、バスロケーションシステムを導入し、スマホなどでリアルタイムに運行状況が確認できるようになった。



手話を身近に

4月1日、大府市手話言語条例を施行した。この条例は、手話が言語であること、その手話を使用する者への理解の普及を進めることが目的。市若手職員が出演し、手話の成り立ち、手の動きなどを説明する動画を制作した。この動画を市公式YouTubeチャンネルで公開した。

